

平成20年度 第三者評価 評価結果

種 別	認定こども園
事業所名称	羽根木こども園
評価機関名称	株式会社学研R&C
評価実施期間	2008年7月4日～2008年12月10日

全体の評価講評

◆ 特に良いと思う点

基本的な知識、技術が網羅された「職員の心得」

職員全員が、勤務するにあたっての職務の心得がことまかに記載された手引き書を作成しています。そこには、職務内容、当番、基本的な生活習慣の自立と援助、自由遊びについて、室内の整理整頓、午睡時の注意、各種記録のとり方等、実際の保育や職員としてあるべき姿も含めて記述されており、各自携帯しています。従って、職員はことあるごとにこの心得を読めば、誰でも一定の仕事こなすことができます。今後はこの心得をベースに、それぞれの項目について内容を深めていく活動に発展させるとよりすばらしいでしょう。

職員の専門性を生かした地域支援事業

子育て支援事業として、一時預かりのほかに、0歳児から3歳児を対象にした園庭開放や2歳児～就学前を対象にした育児サークル活動等（製作やリズム遊び）があります。また、誕生会には地域の親子が参加できるようにしたり、さらには、近隣の公園で出前保育（紙芝居や絵本の読み聞かせ）を行っています。このように、幼児教育や福祉両面から職員の専門性を生かした活動を展開しています。

おいしい食事をめざした、色々な取り組み

子どもたちに楽しく、おいしく食事を楽しんでもらおう、また、安心、安全な食を提供しようということから、食育に力を入れています。静かな音楽をBGMに子どもたちがおだやかに食していました。また、食事の量も自由におかわりができるようなシステムになっていて、子どもたちが自主的におかわりを希望していました。さらに、適温給食を心がけ、担任の連絡により保育時間の長短にあわせながら提供するように工夫しています。その他、異年齢の子どもを組み合わせた交流給食も実施しています。

★ さらなる改善が望まれる点

登降園の方法についての再確認

現在、キンダーコース（幼稚園機能）は正面から、ナーサリーコース（保育園機能）は建物の左横のスロープから登園、降園するようになっていました。朝の登園時の混雑緩和の工夫ですが、保護者への情報は、掲示物をそれぞれの入り口に出しているため、保護者によっては情報発信に差があるのではと感じている保護者もいます。また、正面の入り口はキンダーコースの子ども降園に利用しています。この際、防犯対策の点も含めて、職員会議で話し合い、登降園の場所の統一についての解決策を模索していくことを期待します。

幼保機能のさらなる緊密化

キンダーコース、ナーサリーコースそれぞれの子どもたちは、ごく自然に合同保育を楽しんでいます。職員もわけへだてなく接しています。しかし、まだ1年半強の歴史の浅い新しいシステムなので、今の保護者たちは、自分とは別のコースの保護者について、やや不満や戸惑いがあるようです。それが端的に現れているのが行事の日程の決め方です。それぞれの思いや願いに対してどう折り合いをつけていったらよいか、双方満足するような解決策は大変難しい問題ですが、今後の融合策を望みます。

だれでも使える簡便なマニュアルの再整備

色々な記録類は大変よく整理されています。また、防災や衛生に関するマニュアルもあります。しかし、職員がいつでも気軽に使いやすいかという観点からは、やや問題があるのも散見されます。また、1年半強の認定こども園ですから、必要な書類をそろえただけでも大変な労力だと推察します。今後は、時間をかけて、どんな項目のマニュアルがあれば必要十分か、また、新人の職員でも安心して使えるという観点からの簡便なシート状のマニュアルを再整備していくことを期待します。